

平成 31 年度

事 業 計 画 書

自：平成 31 年 4 月 1 日

至：平成 32 年 3 月 31 日

和歌山市北野 128 番地

社会福祉法人 喜成会

社会福祉法人喜成会

基本理念

私たちは「活動力と和」をモットーに、地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される法人を目指します

平成三十一年度基本方針及び行動指針

【利用者に対する基本姿勢】

- 一、人権の尊重（自己決定と選択の尊重）
- 二、サービスの質の向上
- 三、地域との関係性の継続
- 四、生活環境・利用環境の向上（良質かつ安心・安全なサービスの提供）

【社会に対する基本姿勢】

- 一、地域における公益的な取り組みの推進（地域における様々な福祉課題・生活課題に主体的にかかわり、地域包括ケアの確立に取り組む）
- 二、信頼と協力を得るための情報発信（見せる化・見える化の推進と住民の信頼を得る為の積極的な情報発信）

【福祉人材に対する基本姿勢】

- 一、トータルな人材マネジメントの推進
- 二、人材の確保・定着に向けた取組の強化（働きがいのある職場作り）
- 三、人材の育成（新しい地域包括支援体制を支える総合的な人材の育成）

【マネジメントに対する基本姿勢】

- 一、コンプライアンス（法令等遵守）の徹底
- 二、公正かつ透明性の高い適正な経営
- 三、健全な財務規律の確立
- 四、地域の福祉課題や福祉ニーズに対する素早い対応
- （アクションプラン2020より）

『喜成会のファロソフイー』

【私たちの使命（ミッション）】

「喜成会に関わる全ての人を幸せにする」

「新しい社会福祉の中心として地域に貢献する」

【喜成会の心】

- 一、利他の心
- 二、笑顔を絶やさずに
- 三、感謝の気持ちを持つ
- 四、夢を描く

【顧客価値】

- 一、安全
- 二、礼儀正しさ
- 三、快適さ
- 四、専門性
- 五、効率（生産性向上への取り組み）

【サービスの三ステップ】

- 一、温かい心からのご挨拶を、明るい笑顔を添えて、元気を送ります
- 二、言葉にならない利用者様の声を感じ取り、おもてなしの心でお答えします
- 三、お見送りは感じよく、さよならのご挨拶は心を込めて、お客様の心を支える一言を添えるよう心がけます

平成 31 年度事業計画書

社会福祉法人喜成会
法 人 本 部

今、日本は超高齢・超少子化社会の真只中で生産年齢人口が急速に減少し、全産業界における人材不足が顕著で介護分野においてもそれらを上回る人材不足に見舞われ施設経営・運営に支障をきたしてきています。それらを踏まえて国においては、「働き方改革」による働き方の見直しや、本年 10 月の消費税増税に伴う介護報酬の引き上げ、区分支給限度額の変更、新しい処遇改善加算の 3 点について厚労省告示案が諮問され了承されて内容が確定しました。又、本年 4 月施行の「改正入管法」により新たな外国人材の受け入れ制度が始まり、外国人研修生や、元気な高齢者を中心とする介護補助者の活用などは、どの介護事業者も避けては通れない課題となっています。しかし一方で足元を見たときには、入居者の確保という基本的な経営対策も忘れてはなりません。一時期は特養の待機者が 50 万人とも言われ、入居者には事欠かないと思われていたのは遙か昔のことです。制度改正による入居制限で、特養は要介護 3 以上の施設という位置づけになつてから待機者は一気に減少し、人材不足もさらに悪化していることで、本来の定員を縮小して運営する施設も増加してきています。2015 年の報酬改定で大きく基本報酬を減額されて以来、収益力も大きく低下しました。更に、措置時代から運営している施設は老朽化が進み、大規模改築、もしくは建替えの時期を迎えており、その資金の確保も重要な経営課題です。介護施設は、いろいろな意味で、転換期を迎えており、制度改正だけでなく、個々の施設が抱える固有の問題への対策も急務であり、従来の経営手法が制度改正の度に通じなくなってきたのは誰もが実感している事ではないでしょうか。先を見ると、国が次のステージで進める全世代型社会保障政策によって、自己負担率の引き上げや高齢者を 70 歳に引き上げる政策等も現実味を帯びて来ています。経営環境は今後も変わり続けますが、特に介護老人福祉施設においては、今一度原点に立ち戻り、終の棲家としての役割を果たす為に最後までしっかりと施設で看取っていくことが期待されています。施設である前に、生活の場であり住まいであるということは、地域住民との交流や連携があってこそ住まいと言えます。他の事業所においても、それぞれの施設の機能や役割を十分に認識して、社会資源としての事業所の役割を地域住民の方々に果たしていくこと、つまりそれぞれの事業所が基本に忠実な事業所運営を果たしていくことこそが何よりも重要なことであると考えています。これからの中護経営において最も重要な「自立支援介護」の考え方を今後も追求することにより、サービス上の競争優位性をもつ事と経営管理との両輪を見据え、からの激動時代を生き抜いていくために、今年度も役職員一丸となって適切な経営・運営に努めて参ります。

平成31年度事業計画

部門名	特別養護老人ホーム喜成会（喜成会ショートステイ）					
理念	「活動力と和」をモットーに、地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される法人を目指します。					
部門方針	ご利用者の人格を尊重し尊厳を保ちながら、施設での生活に楽しみや生き甲斐を持って充実した生活を送るためのサービスや援助を果たして行きます。それらを実践していく為にスタッフは常に問題意識を持ち、各職種との意見交換を図り職員同士が協力し合う中で利用者様の生活を支えていきます。また基本理念にある地域に「開かれた、愛される、信頼される」法人を目指し、特別養護老人ホームとしての機能を視野に入所施設としての役割を担って行きます。その為にも職員同士が協力し合う中で地域の皆様より「選んで頂ける施設」を目指しています。					
区分	戦略マップ(区分・部門目標・計画)	戦略目標(区分・部門目標・計画)	重要成功要因(計画・新たに設定)	評価指標(新たに設定)	平成31年度改善目標値	アクションプラン 実施内容と責任者
説明	縦の展開・因果関係を設定	役割・運営方針を具体化する目標を設定	主な成果の具体的な指標(測定可能なもの)を設定	重要成功要因における測定指標を設定	実現を目指す指標の数値目標	目標を達成するために必要な取組み
地域の貢献点・顧客	<p>満足度 ご家族との信頼関係 地域からの信頼 (選ばれる施設へ)</p>	<p>① 利用者満足度の向上 ② 家族対応の強化(家族との信頼関係)</p>	<p>① 満足度アンケート(年1回) ② 家族対応の強化(挨拶の徹底)/訪問行事等の地域の皆様との交流(友の会・民生委員等)</p>	<p>① 満足度確認 ② 家族会役員会にて調査</p>	<p>① 100% ② 100%</p>	<p>① 年に1度、アンケート調査を行い利用者及びご家族の要望を把握する。また検討会にて前年の結果と比較し業務の改善につなげる。(責任者:主任・副主任) ② ご家族対応を強化することで、言葉使いや態度などを見直し、介護の資質向上を目指す。また、家族会役員会と一緒にして、ご利用者の支援など、地域との関わり大切に対応を強化していく、さらにご家族が安心して施設に任せることのできる空間や関わり方を重視し、時代に沿ったご家族の意向も配慮した取組を強化していく(責任者:相談員)</p>
財務の観点		<p>① 収入増加 ② 入退所支援</p>	<p>①-1 長期入所収入向上 ①-2 短期入所収入向上 ② 入退所を円滑に遂行する</p>	<p>①-1 長期入所稼働率 ①-2 短期入所稼働率 ② 入所待機者数の見直しと確保</p>	<p>①-1 (在籍者数)100% ①-2 (在籍者数)100% ② 1回/3ヶ月</p>	<p>①-1 定期的な入所検討委員会の開催。退所後の空きベッドの解消(責任者:熊代・加藤)常に空きの床を維持し、継続的に収益をあげていく。 ①-1・2 入院期間の短縮。早期退院の受け入れ。退院困難者への退所の対応及び空床ベッドの活用(責任者:熊代・加藤) ② 入退所支援の見直しを行い、定期的に管理方法を確認し、円滑な入退所が図られるように努めていく。また、施設建て替えに向けた資金調達を円滑に行うため、特養への収益を向上に向けた整備体制づくりや職員間のモチベーションなどを考慮した受け入れなど、介護力を考えた入退所支援を行っていきます(責任者:入所検討委員会)</p>
業務プロセスの観点		<p>① 3か月に1度、業務の資質向上を図り、介護力向上を目的に検討会を実施。前月の結果と比較し業務のプロセスを見直す。 ② 個々の利用者の状態を把握する為、各職種が連携し、クオリティーマネジメントの実践を行い、仮設立てを行う</p>	<p>① 要介護度の高い方が増え、基本業務に追われる事が多くなっているため、入所者との時間を作り寄り添うケアの追及を行っていく。 ② クオリティーマネジメントの研修を機会に介護知識50を基本として物事を捉え、業務プロセスを向上させる。</p>	<p>① 内部研修や会議による改善と検討 ② 個々のご利用者に寄り添い、仮設立てをすることで業務遂行の見直しや改善に努め、介護力を向上させていく。</p>	<p>① 毎3カ月に介護力向上の会議を開き、見直しを行おう ② 3か月に1回</p>	<p>① 日々の変化や利用者ごとのケアについて職員個々により話し合い連携を図りケアを進めていく。また、クオリティーマネジメント用紙の活用から仮設立てを行い、ご利用者の本質や業務改善に努め、事前に体調不良者の状況確認を行うなど、入院者を出さない取組を強化していきます。早期発見、早期対応でスタッフ一丸となって、業務の見直しを行い、重複化に伴う、介護力の資質向上を高めています。(責任者:介護主任・副主任) ② クオリティーマネジメント研修の基本的視点をもとに昨年度、特養内で取り組んだ内容を中心として業務プロセスを向上させていく(責任者:介護主任・副主任)</p>
学習と成長の観点		① 職員研修による質の向上	<p>①-1 内部研修及び勉強会の実施と参加促進 ①-2 外部研修会への参加促進</p>	<p>①-1 内部研修回数 ①-2 外部研修の参加数</p>	<p>①-1 4ヶ月 ①-2 4ヶ月</p>	<p>①-1 特養独自の内部研修を積極的に実施しフロア間で研修内容を伝達し、検討をする。(責任者:相談員・主任・副主任) ①-2 職員育成のために必要な外部研修会へ参加を促し、受けた研修内容についてレポートを提出、会議にて伝達報告を行う。また内容により必要なレポートについては他事業所のものでも研修委員にて判別し各フロアに回覧していく。(責任者:相談員・主任・副主任)</p>

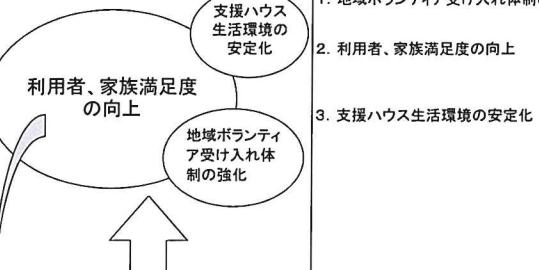
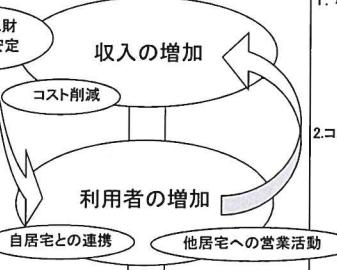
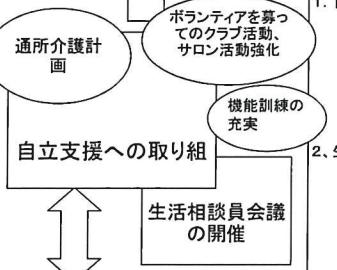
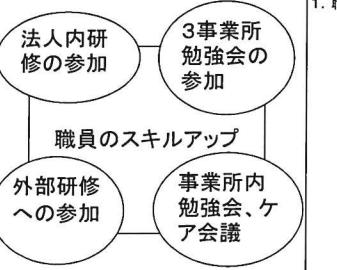
平成31年度 事業計画

部門名	居宅介護事業所					
理念	利用者受益					
部門方針	介護支援専門員としての法令遵守と倫理観を持ち、支援を行う。					
区分	戦略マップ(区分・部門目標・計画)	戦略目標(区分・部門目標・計画)	重要成功要因(計画・新たに設定)	評価指標(新たに設定)	平成31年度 改善目標値	アクションプラン 実施内容と責任者
説明	縦の展開・因果関係を設定	役割・運営方針を具体化する目標を設定	主な成果の具体的な指標(測定可能なもの)を設定	重要成功要因における測定指標を設定	実現を目指す指標の数値目標	目標を達成するために必要な取組み
地域の貢献点・顧客	<p>潜在利用者の掘り起こし</p> <p>地域活動への参加 ちらし、パンフレットの配布 介護相談会の実施</p>	<p>1. 潜在利用者の掘り起こし (地域等で支援を求めている人、支援が必要な人、困っている人など、潜在利用者の掘り起し)</p>	<p>①地域活動・行事への参加 ②ちらしの配布等 ③地域包括支援センター川永との連携強化</p>	<p>①地域高齢者の把握 ②PR活動、新規利用者の獲得(掘り起こし) ③新規利用者の獲得</p>	<p>①年18回以上 食事会⇒10回 介護教室⇒2回 にじいろカフェ⇒6回 地区別会議 地域活動 ②32カ所 ・スーパー・高層・事業所⇒11カ所 ・地域包括支援センター⇒5カ所 ・地域連携室・病院等⇒13カ所 ・登育院⇒4カ所 ③月一回情報交換</p>	<p>①紀伊地区ふれあい食事会・地域交流活動・地区別会議・介護教室・にじいろカフェ等に参加し、コミュニケーションを図り情報収集、情報交換等を行ない地域高齢者の(潜在利用者)の把握を行う。 ②、ちらしの設置や配布をするとともに法人全サービスのPR活動を行ない、支援を必要としている方々の相談や必要な支援を行なう。商業施設等での無料介護相談会を開催予定。 地域包括支援センター・市役所、地域包括ケア病棟がある病院(地域連携室がある病院)、病院(開業医)等への積極的な営業の実施。 ちらし、パンフレットについては、持ち帰り状況を確認、充補し、設置場所を再検討する(担当制にして在庫管理等をきっちりと行う。3か月に一度実施する)。 ③、包括支援センタからの相談依頼(受入依頼)について積極的に行なう。</p>
財務の視点	<p>収入の増加</p> <p>稼働率の向上 事業所加算の維持</p>	<p>1. 収入の増加</p>	<p>①収入・稼働率の向上 ②特定事業所加算(特定事業所加算Ⅱ)の維持</p>	<p>①常勤換算による稼働率 要介護・要支援: 稼働率88%(267名) ※事業対象者については要支援者と同じとみなしてカウントする。 ②加算条件の整備 (1)特定事業所集中減算の回避 (2)他法人が運営する居宅介護支援事業者と共同の事例検討会・研究会等の実施 (3)地域包括支援センター等が実施する事例検討会等への参加</p>	<p>①(1) ・月稼働率88% ⇒ 267名 ②(1)実施回数: 年2回 (2)実施回数: 年1回以上 (3)実施回数: 年1回以上</p>	<p>①、常勤換算7.8名として、稼働目標88%(267名)を目指し、新規の受け入れを積極的に行なう。(平成30年の平均稼働率に10%上乗せし目標数値を設定) ①(1)要介護・要支援: 稼働率88% ⇒ 267名 ◆要介護: 203名以上 ◆要支援: 128名(介護計算64名)以上を目標に事業所で取り組 203+64=267名 ②、(1)同一法人事業所のサービスを利用する際はその選択理由を必ず確認する(理由書)。 (2)協力してくれる事業所を探し)事業所間共同での事例検討会を行ない、ケアマネジャーの資質向上を図る。 (3)地域包括支援センター等が実施する事例検討会等への参加案内があれば積極的に参加し、知識や技術の向上と関係機関とのネットワーク強化を図る。</p>
業務プロセスの視点	<p>ケアマネジメントの質の向上</p> <p>サービス、社会資源の情報収集 他部門との連携の強化 医療・介護の連携強化 サービス担当者会議開催・カンファレンスへの参加</p>	<p>1. ケアマネジメントの質の向上</p>	<p>①サービスおよび社会資源についての情報収集 ②他部門との連携の強化 ③医療・介護の連携強化</p>	<p>①利用者に関する情報又はサービス提供に当たっての留意事項に係る伝達等を目的とした会議・勉強会の開催 ②サービス担当者会議の定期的開催 ③入退院時の情報提供実施や(退院)カンファレンスへの参加</p>	<p>①週1回 ②(1)月1回 (2)随時 ③利用者の入院時や退院時に実施</p>	<p>①、事業所加算要件の一つである会議・勉強会の開催により、情報の共有化を図り、よりよいケアマネジメントにつなげる。 処遇困難ケースやケアマネが抱える問題等についての事例検討の実施。 地域にある社会資源の情報収集・把握、施設見学や内覧会への参加等。 ②、(1)月1回定期開催の日時を決め、効率的に会議を開催する。(みらいデイサービス)。 (2)随時ケースごとのサービス担当者会議を開催する ③、入院時における医療機関との連携を図るために早急に医療機関に情報提供を行なうよう心掛ける(3日以内②7日以内)。また退院時における利用者の情報収集やカンファレンスの開催があつた際には積極的に参加する</p>
学習と成長の視点	<p>専門職としての資質の向上</p> <p>外部研修にて専門性を高める 法人内研修による質の向上</p>	<p>1. 専門職としての資質の向上</p>	<p>①外部研修にて専門性を高める ②法人内研修による質の向上を図る</p>	<p>①(1)ネットワーク会議・地域ケア会議への参加 (2)専門職団体開催の研修会への参加 (3)個人目標に掲げている研修計画への参加 (4)専門研修への参加(専門研修1・2) ②法人内研修への参加</p>	<p>①(1)年4回 (2)年3回 (3)年1回以上 (4)対象者のみ ②年6回</p>	<p>①、各種団体の研修会に参加し、専門知識を習得する。 介護支援専門員資格更新時期を各個人で確認しづく専門研修を受講する。 ②、法人内研修会参加後は、ミーティングまたは定期会議において、伝達研修を行なう。</p>

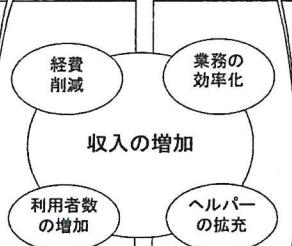
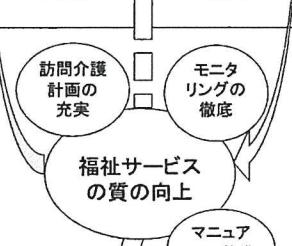
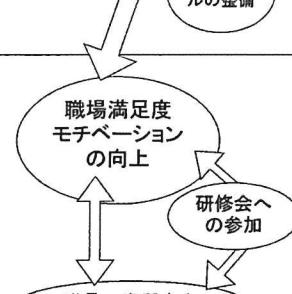
平成31年度 事業計画

部門名	和歌山市地域包括支援センター川永					
理念	地域住民の相談窓口として、公益性、地域性、協働性の原則に沿って活動していく。					
部門方針	地域包括支援センター内の三職種が相互連携するとともに、地域の関係者と連携を図り、高齢者が住み慣れた地域で尊厳あるその人らしい生活を継続する事ができるよう、地域包括ケアの実現を目指していく。					
区分	戦略マップ(区分・部門目標・計画)	戦略目標(区分・部門目標・計画)	重要成功要因(計画・新たに設定)	評価指標(新たに設定)	平成27年度 改善目標値	アクションプラン 実施内容と責任者
説明	紙の展開・因果関係を設定	役割・運営方針を具体化する目標を設定	主な成果の具体的な指標(測定可能なものを設定)	重要成功要因における測定指標を設定	実現を目指す指標の数値目標	目標を達成するために必要な取組み
地域の貢献点・顧客	<p>他職種、他分野、関係他団体とのネットワーク 相談窓口の周知 地域課題の抽出 介護予防の啓発</p>	地域課題の抽出、分析	<p>地域の住民への広報、周知 様々な集会、サロンへの参加 介護教室への協力、参加 (自立支援型)地域ケア会議の開催 運営推進会議への参加 介護予防への啓発</p>	<p>相談窓口の周知、広報活動の回数 民生委員定例会参加回数 サロン、介護教室、相談会訪問回数 (自立支援型)地域ケア会議の開催回数 運営推進会議会議参加回数 介護予防の啓発回数</p>	<p>随時 毎年2回 年3回 随時(要請時) 随時</p>	<p>訪問時には、口頭、チラシ等により広報活動を行う。 → 今年度、掲示板を含め、広報活動を見直す。 民生委員の定例会にも出来る限り参加する。 地域住民の様々な集会にも出来る限り参加する。 自立支援に向けたケア会議を開催する。 ケア会議から地域課題を分析し、対応を行う。 各会議に出席し、意見交換、情報交換を行う。 既存の手法にとらわれず、様々な方法で介護予防の啓発、情報提供を行う。</p>
財務の視点	<p>地域性協働性 公益性の確保 相談件数の増加</p>	相談件数の増加 担当件数の増加	<p>地域の住民への広報、周知 利用者数の確保(適正な人数)</p>	<p>相談件数 包括全体の担当件数</p>	<p>随時 三職種10人未満</p>	<p>地域の住民から寄せられた様々な相談や困りごとに對し、三職種をはじめ包括職員全体で協働して取り組む。 様々な問題を抱え、定期的な関わりが必要な方は引き続き包括で担当し、対応する。 必要時には適切なサービスを提供する。 (必要性や経緯を出来る限り明らかにする。)</p>
業務プロセスの視点	<p>SCとの連携 社会資源の情報収集 チームアプローチ 相談援助機能の向上</p>	相談援助機能の向上	<p>社会資源についての情報収集、分析 (行政や他団体からも情報収集) 生活支援コーディネーターとの連携 チームアプローチの強化</p>	<p>圏域内の社会資源の情報収集 定期的な情報交換 地区別会議への参加 事業所内会議の開催回数 ミーティングの開催回数</p>	<p>随時 随時 毎日</p>	<p>圏域内のサービス事業所や施設の情報については把握し、情報収集、情報交換を行う。 必要な情報、パンフレットは保存し、いつでも閲覧できるように整備する。 SCと随時情報交換を行い、活動をサポートする。 地区別会議へ出来る限り出席し、地域の課題を抽出する。 定例のミーティング以外にも必要時には随時必要な会議を行い、常に事業所全体で連携、進捗を確認しながら業務を進める。</p>
学習と成長の視点	<p>情報収集 研修会への参加 ネットワークづくり 専門職としての資質の向上</p>	専門職としての資質の向上	<p>各種専門職会議に参加 介護支援専門員ネットワーク会議の準備、開催 外部研修会への参加 法人内研修会への参加</p>	<p>主任CM会議、保健師会議、社会福祉士会議、15包括連絡会議への参加回数 介護支援専門員ネットワーク会議の開催回数 外部研修会への参加回数 法人内研修会への参加回数</p>	<p>各会議 月1回 年4回 随時(必要時) 随時</p>	<p>各種専門職の会議に出来る限り出席し、専門職としてのスキルアップ、必要な情報交換を行う。 有効包括と合同開催、圏域内の介護支援専門員との連携、情報交換、必要な研修会を提供する。 他関係機関との顔の見える関係作りの為にも、業務の支障の無い範囲で出来る限り参加する。 法人内研修会にも出来る限り参加する。</p>

事業計画

部門名	喜成会デイサービスセンター						
理念	利用者に楽しく、飽きの来ない活動を提供し、「また来たい」と思って頂けるデイサービスにする。						
部門方針	私たちは利用者が住み慣れた在宅での暮らしを継続していくために自立した生活を応援するとともに、利用者一人一人を尊重する事によって生きがいのある充実した時間を過ごせるよう努めています。						
区分	戦略マップ(区分・部門目標・計画)	戦略目標(区分・部門目標・計画)	重要成功要因(計画・新たに設定)	評価指標(新たに設定)	平成29年度 改善目標値	アクションプラン 実施内容と責任者	
説明	縦の展開・因果関係を設定	役割・運営方針を具体化する目標を設定	主な成果の具体的な指標(測定可能なものを設定)	重要成功要因における測定指標を設定	実現を目指す指標の数值目標	目標を達成するために必要な取組み	
地域貢献点・顧客		1. 地域ボランティア受け入れ体制の強化 2. 利用者、家族満足度の向上 3. 支援ハウス生活環境の安定化	1. 受け入れボランティア数 2. 利用者、家族満足度の向上 3. 地域ボランティア受け入れ体制の強化	1. 受け入れボランティア数 2. -①支援ハウスの入居者、またそのご家族への聞き取り実施 3. 関連事業所との連携の強化	1. 受け入れボランティア数 2. -①聞き取った内容から職員の対応に関しての満足度 3. 関連事業所からの情報収集と共有を図る	1.ボランティア数 4組→10組 2. -①100% 苦情なし 3. 随時	1. 地域でボランティア活動を行っているところに声をかけ、定期的にサロン教室を行ってもらう団体5組、ランダムで入ってくれる団体5組。(松尾) 2. -①行き届かない点があれば早急に対応、改善に努め生活環境の質の向上を図る。(西村) 3. 共有した情報を利用者満足度に繋げる。また、個々の生活状態を把握し、必要に応じて公的サービスの見直し、バランスを図りながら生活支援に努める。(西村、松尾)
財務の視点		1. 収入增加 2. コスト削減	1.利用者の増加 2.光熱水費の確認	1.-①定員に対しての利用率 1.-②登録者の増加 支援ハウスからの利用者の増加 2.光熱水費の使用量の確認	1.-①79%→80% 1.-②127名→130名 支援ハウスから利用者 10名→12名 2.毎月電気使用量、水道使用量2%の削減	1-①新規利用者、体験利用者を増やすために、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターを計画的に周り、当事業所をアピールする。また、通所介護計画書は手渡しを基本とし、近況報告も合わせて行う。(土居、相談員)また、機能訓練指導員(三宅さん)を中心にリハビリに力を入れるということをアピールしていく。 1-②毎月10時間を目標に営業に費やす時間を確保する。(管理者、相談員) また、相談員会議・営業推進会議を兼ねる2週間に1回行い、営業活動の状況や方向性、業務見直しなどを検討する。 2. 小まめな電気や水道のON、OFFを行う。(職員全員)	
業務プロセスの視点		1. 自立支援への取り組み強化 2. 生活相談会議の開催	1-①通所介護計画のモニタリング・再アセスメントの強化 1-②ボランティアによるクラブ活動、サロン活動の強化 機能訓練の充実 2. 業務の見直し	1-①月に1回 1-②2ヶ月に1回 1-②機能訓練実施者(加算をついている人)数 2. 月に1回	1-①月に1回 1-②2ヶ月に1回 1-②登録者数12名→20名 2. 月に1回	1-①利用者、家族、ケアマネと密に連絡を取り、その人にあつた通所介護計画の立案、変更を行う。(土居、安村、松尾) 1-②毎月、相談員会議を行い、進捗状況を確認、今後についての検討を行なう。利用者のニーズに合い、楽しんで参加して頂けるような物を目指す。(松尾) 1-②機能訓練実施者を増やすため、自宅、他居宅のケアマネさんへのアプローチを行う。 2. 2ヶ月に1度相談員会議の開催を行い、介護職員の業務の動きや内容さらには、職員の育成について話し合い、変更、改善を行っていく。(土居)	
学習と成長の視点		1. 職員のスキルアップ	1-①法人内研修の参加 1-②デイサービス3事業所勉強会の参加 1-③事業所内勉強会 ケア会議 1-④外部研修への参加	1-①職員参加率 1-②職員参加率 1-③職員参加率 1-④外部研修参加回数	1-①50% 1-②60% 1-③50% 1-④参加者を6名出していく。	1-①年9回ある法人内研修に参加し、伝達研修を行う事によって職員全体に把握を行なう。(湯谷) 1-②年に3回勉強会に参加し、デイサービス3事業所の考え方や介護を統一し、職員のスキルアップを図る。(土居) 1-③月に2度数名の利用者についてのケア会議を行い、職員間のケアの統一を図る。(相談員) 1-④外部研修への参加を推進する。(土居)	

事業計画

部門名	喜成会ホームヘルプサービス	喜成会ホームヘルプサービス太田					
理念	私たちは「活動力と和」をモットーに、地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される施設を目指します。						
部門方針	ヘルパー一人一人が利用者の立場に立ち、誠意と愛情をもって、利用者がいかに自立した自分らしい生活が出来るかを考え、共に喜び合えるよう、在宅生活をサポートしていく。						
区分	戦略マップ(区分・部門目標・計画)	戦略目標(区分・部門目標・計画)	重要成功要因(計画・新たに設定)	評価指標(新たに設定)	平成31年度 改善目標値	アクションプラン 実施内容と責任者	
説明	継の展開・因果関係を設定	役割・運営方針を具体化する目標を設定	主な成果の具体的な指標(測定可能なもの)を設定	重要成功要因における測定指標を設定	実現を目指す指標の数値目標	目標を達成するために必要な取組み	
地域の貢献点・顧客		1. 利用者、家族満足度の向上 2. 接遇レベルの向上 3. クレーム改善	1. 利用者、家族へのアンケートの実施 2. 利用者、家族への接遇アンケートの実施 3. クレーム処理	1. アンケートによる満足度指数 2. 接遇アンケートによる満足度指数 3. クレーム処理	1. 90%以上 2. 90%以上 3. 迅速に対応	1. 利用者、家族を対象に今年度中にアンケートを実施する。 (7月頃をめどに実施する) → 全職員 2. アンケート回収後に会議を開き、改善が必要な箇所は改善を行う。 → 管理者 3. 速やかにクレーム処理を行なう。 → 全職員	
財務の視点		1. 収入増加、利用者数の増加 2. 経費削減、業務の効率化	1. 介護保険収入、利用者の増加 介護保険制度の動向調査 2. 経費削減、業務の効率化	1. 収入の増加率 2. 経費削減	1. 前年度の実績各平均の約8%アップ (太田の実績と合算) (月平均) 170名 → 185名 1700回 → 1850回 580万 → 630万 2. 経費削減	1-①. 各曜日利用者人数の把握と登録ヘルパー稼動の曜日の再確認を行う。 ヘルパー訪問の曜日希望がない利用者に関しては、出来るだけ少ない曜日に新規利用者を入れるようにする。 1-②. 新規利用者を増やすために、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターと連携を計る。 1-③. 随時、利用者の利用回数の見直しを行い、必要であればケアマネに連絡を取り、利用回数の増加を行う。 → 全職員 2. 業務の見直しを行い、業務の効率的に行われているかを確認する。 → 管理者	
業務プロセスの視点		1. 訪問介護計画の充実 2. マニュアルの整備	1. 訪問介護計画のモニタリングの強化 再アセスメントの実施 2. マニュアルの確認、見直し	1. 3ヶ月に1回 2. 随時	1. 3ヶ月に1回 2. 随時	1. 日々のミーティングの中で、変化のあった利用者の状態を訪問介護計画に反映する。さらに3ヶ月に1度は見直しを行い、変更箇所はその時に随時変更する。 → 全職員 2. 事業所内で、サービス提供責任者会議を随時行い、業務マニュアルの確認と見直しを行う。 → 全職員	
学習と成長の視点		1. 職員の資質向上 研修会への参加 2. 職場満足度、モチベーションの向上	1-①. 法人内部研修への参加 ヘルパー会議・研修会への参加 1-②. 法人外部研修への参加 2. 職員へのアンケートの実施	1-①. 職員参加率 1-②. 随時参加 2. アンケートによる満足度指数	1-①. 100% 1-②. 年4回程度 2. 90%以上	1-①. 年に数回ある法人内部研修に参加し、その後、事業所内で会議や伝達研修を行い、個々の職員のスキルアップを図る。 → 全職員 1-②. 外部研修の情報を収集し、出来る限り参加し、個々の職員のスキルアップを図る。 → 全職員 2. 職場満足度を高め、離職を減らす取り組みを行なう。 → 全職員	

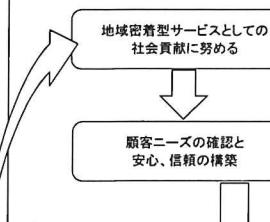
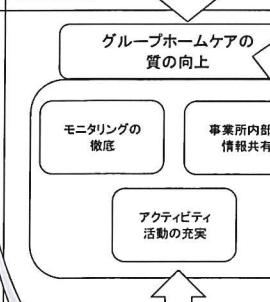
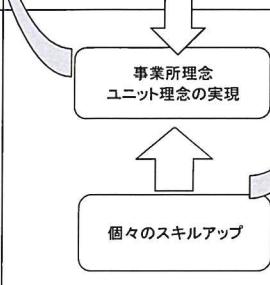
平成31年度 事業計画

部門名	グループホーム喜成会					
理念	「笑って 泣いて 人生つれもていろ」					
部門方針	認知症の人の抱える不安を共同生活する中で軽減していく、個々の意思を尊重しながら安心出来る暮らしを提供していくことを目的とする。 その目的を実現していくために、地域交流の下、認知症の人の内在する世界を読み取り、個々の有する能力を見極めながら豊かな心で日々暮らしていただけるよう努めていく。					
区分	戦略マップ(区分・部門目標・計画)	戦略目標(区分・部門目標・計画)	重要成功要因(計画・新たに設定)	評価指標(新たに設定)	平成30年度改善目標値	アクションプラン 実施内容と責任者
説明	継の展開・因果関係を設定	役割・運営方針を具体化する目標を設定	主な成果の具体的な指標(測定可能なもの)を設定	重要成功要因における測定指標を設定	実現を目指す指標の数値目標	目標を達成するために必要な取組み
地域の貢献点・顧客	<p>地域密着型サービスとしての社会貢献に努める → 入居者およびご家族への安心と信頼の構築</p>	1. 地域密着型サービスとしての社会貢献に努める 2. 入居者およびご家族への安心と信頼の構築	1- (1) 運営推進会議の円滑運営 (2) 自治会活動等への参加 (3) みらい玄関先の清掃 2- (1) なじみの関係性の構築 (2) 担当業務の強化	1- (1) 運営推進会議参加人数 (2) 自治会活動等への参加回数 (3) みらい玄関先清掃活動回数 2- (1) スタッフの定着率 (2) 個々が責任ある業務遂行	10名／1回 5回／年 毎日 年間 年間	1- (1) 職員を固定せず参加促す 担当者: 管理者 (2) 年間の行事表を作成し、月々の行事予定を掲示する 担当者: 管理者 (3) 玄関前およびゴミ箱清掃を含め実施していく 担当者: 管理者 2- (1) 現状スタッフでの継続運営 担当者: 管理者 (2) 各職員が責任を持ち主体的に取り組む 担当者: 全職員
財務の視点	<p>経費削減 → 収入の確保</p>	1. 経費削減 2. 収入の確保	1-(1) 食費に関する支出表の活用 (2) 光熱水費の削減 2. 稼働率の安定	1-(1) 食費 削減 5% (2) 光熱水費 削減 5% 2. (1) 稼働率 100%	1- (1) 5%削減 【前年度費】 1- (2) 5%削減 【前年度費】 2. 稼働率100%	1. 前月との比較を行い、削減に努めていく 担当者: 島村・平井・池田 2. 日常における節約意識をスタッフが周知する 担当者: 池田 2- (1) 異常の早期発見・対応し利用者の健康管理に努める 担当者: 管理者
業務プロセスの視点	<p>グループホームとしてのるべき支援を目指していく → 個々の能力を活かした生活支援の構築</p>	1・地域密着型サービス外部評価の実施 2・個々の能力を活かした生活支援の構築	1- (1) 自己および外部評価結果に基づく支援の見直しを行なう (2) アセスメント力の強化	1- (1) 現行サービスの維持および結果に基づいた改善を行なっていく (2) 高齢化および認知機能の低下に応じ、個々の生活支援を組み立てることができる。	毎日 毎日	1- (1) その日、その時の個々の入居者や支援体制に応じた動き方を考え支援を行なっていく 担当者: 管理者 (2) 介護計画の見直し時や個々の状態変化に応じたアセスメントにより、その人のできることをや可能性を視野に検討し、日々の支援に活かせる。 担当者: 計画作成担当者
学習と成長の視点	<p>事業所理念の実現 → チームケアの推進と</p>	1. 事業所理念の実現 2. チーム力の維持・向上	1- (1) 日頃から理念を意識した業務 2- (1) OFF-JTの活用を行う (2) OJTによる適切な指導および助言	1- (1) スタッフ定例会議等での確認 介護計画に基づく支援 スタッフ間のコミュニケーション 2- (1) 外部研修参加 参加回数 (2) 日常の業務の中でより適切な支援方法やかかわり方などを管理者が指導・助言していく	適時 適時 年間1回以上	1- (1) 定例会議やミーティングなどの機会に理念を念頭においてアドバイスや状況においていた考え方などをスタッフ間で話し合いをしていく。 担当者: 管理者および全スタッフ 2- (1) (2) 管理者がスタッフ個々の状況を把握しました入居者の状態に応じて適切にアドバイスを実施していく。また、外部研修への参加を促していく。 担当者: 管理者等

平成31年度事業計画

部門名	看護小規模多機能 紀伊					
理念	活動力と和をモットーに地域に開かれた地域に愛される地域に信頼される法人を目指します。					
部門方針	'医療'と'介護'の連携を図り、地域密着型サービスとして地域の皆さんに「安心」と「信頼」ある事業所作りを目指します！					
区分	戦略マップ(区分・部門目標・計画)	戦略目標(区分・部門目標・計画)	重要成功要因(計画・新たに設定)	評価指標(新たに設定)	平成29年度改善目標値	アクションプラン 実施内容と責任者
説明	縦の展開・因果関係を設定	役割・運営方針を具体化する目標を設定	主な成果の具体的な指標(測定可能なもの)を設定	重要成功要因における測定指標を設定	実現を目指す指標の数値目標	目標を達成するために必要な取組み
地域の貢献点・顧客		<p>1、地域との交流</p> <p>2、顧客ニーズの把握と確認</p>	<p>1、地域住民との行事参加や慰問等の受入 運営推進会議の円滑な開催</p> <p>2、①各関係機関との連携 ②利用者・家族との密な情報交換</p>	<p>1、地域交流、行事参加への回数 運営推進会議の実施回数</p> <p>2、①地域開業医、HP連携室、外部居宅との連携指 数 ②カンファレンス会議・サービス担当者会議など の開催指數</p>	<p>1、6回/年間 1回/2カ月間</p> <p>2、①適時/月 ② "</p>	<p>1、地域住民との交流や地域行事への参加・立案・運営。 (事業所周辺の清掃や駐車場内の設備確認) 運営推進会議の資料作成や情報提供の徹底、事業所サービスの周知。又、利用者状況や運営等の報告。</p> <p>2、①情報共有・情報交換の徹底。定期的な訪問を行い事業周知を行 う ②利用者の現状把握とアセスメント・モニタリングの徹底。退院後の在宅生活へのスムーズな移行支援。ケアプラン及び看護小規模多機能計画書の見直し・作成。サービス記録、実績データの作成・管 理</p>
財務の視点		<p>1、収入の増加</p> <p>2、コスト削減</p>	<p>1、稼働率・登録者数の安定化を図る</p> <p>2、光熱費、消耗品などへのコスト意識を持つ</p>	<p>1、①稼働率目標の設定 ②定期的な広報活動</p> <p>2、光熱費、消耗品の使用確認</p>	<p>1、①100% (登録定員数 29人) ②最低15件以上/月</p> <p>2、1回/月</p>	<p>1、①稼働率安定化に向けての外部関係機関との連携強化 ②外部機関への継続的な広報活動の実施 法人内事業推進部との連携(広報先リストの作成と確認)</p> <p>2、コスト削減におけるデータ管理</p>
業務プロセスの視点		<p>1、サービスの質の向上</p> <p>2、「医療」「介護」の連携</p>	<p>1、スタッフ間の情報共有化を図る ①スタッフ会議の開催(介護職) ②安全、かつ適切な配置をされているかの確認 ③年間行事計画、月間行事の実施回数</p> <p>2、事業所全体会議の開催 通所サービス管理者会議の開催</p>	<p>①スタッフ会議の開催回数 ②安全、かつ適切な配置をされているかの確認 ③年間行事計画、月間行事の実施回数</p> <p>2、事業所全体会議の回数 通所サービス管理者会議への参加指數</p>	<p>①1回/月 ②随時 ③毎月2回(イベント回数)</p> <p>2、1回/月 "</p>	<p>①スタッフ会議を開催し情報の共有を図る ②安全対策や医療面への配慮が成されているかを確認 ③企画運営を行い、実施計画書・報告書の作成を行う</p> <p>2、看護師、介護スタッフ間の情報共有を図る 勉強会や研修の内容を検討する</p> <p>法人内における各事業所との情報共有や現状把握</p>
学習と成長の視点		<p>1、職員のスキルアップ</p> <p>2、自己評価</p>	<p>内部・外部研修・勉強会への参加 在宅サービス内勉強会の実施</p> <p>2、業務におけるスタッフ個々の自己評価の実施</p>	<p>研修などへの参加指數 勉強会の開催回数</p> <p>2、自己評価表の実施</p>	<p>100%(全スタッフ対象) 2回/月(随時)</p> <p>2、1回/月</p>	<p>研修への参加時には各自レポートを作成し、スタッフ間で話合いの場を持つ テーマを設定し医療・介護の視点で開催を実施する</p> <p>現場スタッフとのコミュニケーションの場を設ける。 業務への負担・意欲などの確認</p>

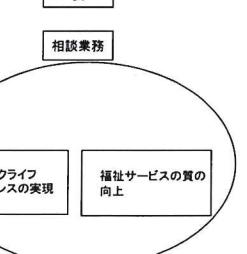
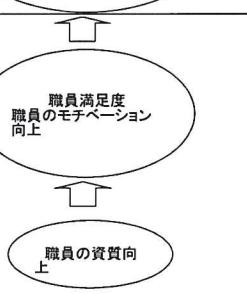
平成31年度事業計画

部門名	グループホーム紀伊、共用型デイサービス紀伊					
理念	活動力と和モットーに地域に開かれた地域に愛される、地域に信頼される法人を目指します。					
部門方針	認知症の方の抱える不安な気持ちを共同生活の中で軽減し、「自立支援」と「尊厳の保持」を念頭に個々の出来るチカラに応じた支援を組み立て、安心できる生活を提供します。					
区分	戦略マップ(区分・部門目標・計画)	戦略目標(区分・部門目標・計画)	重要成功要因(計画・新たに設定)	評価指標(新たに設定)	平成31年度 改善目標値	アクションプラン 実施内容と責任者
説明	縦の展開・因果関係を設定	役割・運営方針を具体化する目標を設定	主な成果の具体的な指標(測定可能なもの)を設定	重要成功要因における測定指標を設定	実現を目指す指標の数値目標	目標を達成するために必要な取組み
地域の視点・顧客		<p>1、地域密着型サービスとしての社会貢献に努める</p> <p>2、顧客ニーズの確認と安心、信頼の構築</p>	<p>(1)運営推進会議の円滑運営 (2)地域活動・行事への参加 (3)センター周辺の清掃活動</p> <p>(1)体制加算Ⅱの取得維持 I(口)取得にむけた取り組み (2)居室担当制の充実 (3)ケアプラン、通所介護計画書の充実 (4)家族・ケアマネとの情報交換(共用型)</p>	<p>(1)運営推進会議の参加人数 (2)地域との交流実施回数 (3)センター周辺の清掃活動回数</p> <p>(1)現状スタッフの定着化 介護福祉士有資格者50%を確保 (2)居室内の清掃や整理など家族への的確な情報提供 (3)更新時期における家族との情報交換指数 (4)サービス担当者会議への参加指数</p>	<p>2名/1回 4回(3ヶ月に1度) 毎日</p> <p>年間 随時 100% 100%</p>	<p>(1)職員を固定せず参加を促す(管理者) (2)年間の行事活動計画を作成し、月毎の行事予定を掲示する。 (3)玄関周りやセンター周辺の清掃活動を実施する(全職員)</p> <p>(1)現状スタッフで継続的に運営する(管理者) (2)各職員が責任を持ち主体的に取り組む。担当者については一覧を事業所内に掲示する。(各担当者) (3)更新時期には家族に対してサービスの要望等を確認し、顧客ニーズを把握する。(管理者・計画作成担当者) (4)利用者個々の情報交換の場として、積極的に参加する(管理者)</p>
財務の視点		<p>1、収入の確保</p> <p>2、経費削減</p>	<p>(1)稼働率の確保と安定</p> <p>(1)食材費支出手帳の活用 (2)光熱費・消耗品の確認</p>	<p>(1)月平均稼働率 (2)外部関係機関への広報活動件数</p> <p>(1)食材費の支出状況の確認 (2)光熱費・消耗品の使用確認</p>	<p>稼働率100% (入所⇒9名)</p> <p>外部関係機関10件/月</p> <p>月1回 月1回</p>	<p>(1)①異常の早期発見と対応。利用者の健康管理に努め、必要に応じて看護師と連携する。(管理者) (2)事業推進部、看多機と連携し外部居宅事業所等の関係機関へ広報活動を実施。待機状況について最新を保ち、スムーズにサービスの移行ができるよう努める。(管理者)</p> <p>(1)前月との比較を行い、増加傾向のある場合は削減に努める (2)物品や消耗品の在庫確認を行い、日常における節約意識をスタッフ間で周知する。(全職員)</p>
業務プロセスの視点		1、サービスの質の向上	<p>(1)共同生活支援の充足 (2)アセスメントの充実 (3)アクティビティ活動の立案と運営</p>	<p>(1)状況に応じた支援、利用者との関係性支援 (2)センター方式C-1,C-2の作成 (3)年間行事計画の実施回数</p>	<p>毎日</p> <p>毎日</p> <p>月2回</p>	<p>(1)その日、その時の利用者の状態、職員体制に応じた動きを考え、支援を行っていく。(管理者) (2)居室担当者が作成しスタッフ会議で共有する。 (3)企画担当者を決め、毎月2回の立案・運営を行う。計画書及び実施記録を作成する。(行事活動担当者)</p>
学習と成長の視点		<p>1、事業所理念、ユニット理念の実現</p> <p>2、職員個々のスキルアップ</p>	<p>(1)チームケアの充実 (2)主となるスタッフを中心にOJTの実施 (3)法人内研修への参加 (3)外部研修への参加</p>	<p>(1)①スタッフの定例会議の開催 ②ケア目標の共有化 ③介護福祉士有資格率50%(現在32%)</p> <p>(1)人事考課による評価 (2)法人内研修参加回数 (3)外部研修参加回数</p>	<p>月1回</p> <p>年2回/職員1名 年1回/職員1名 年1回/職員1名</p>	<p>(1)会議の内容については事前に伝え、会議に向かう準備を定着化させる。会議の中で職員間の情報共有、方向性を統一させる。ケアプランの共有化を図り実践する。必要な知識や技術の習得のサポートを行う。(管理者)</p> <p>(1)実際の仕事を通じて必要な知識や技能、態度などを身につけさせる。 (2)法人内研修参加後は事業所会議等で伝達を行い、職員全体で情報を共有する。(管理者) (3)認知症介護実践者研修への参加を推進する(管理者研修も含めて)認知症関連の研修やその他の分野においても参加し、職員への周知、育成の材料として活用する。(管理者)</p>

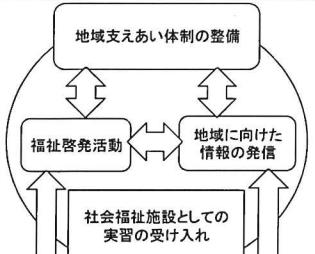
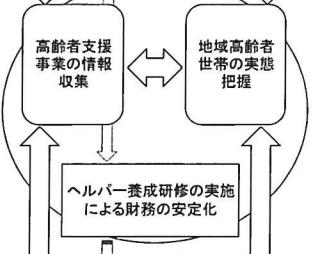
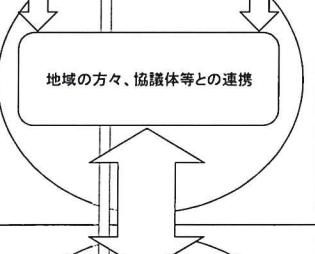
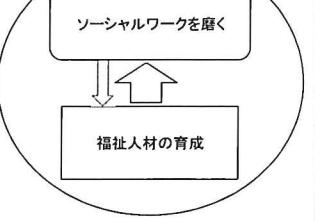
平成31年度事業計画

部門名	訪問看護ステーション紀伊					
理念	活動力と和をモットーに地域に開かれた地域に愛される地域に信頼される法人を目指します。					
部門方針	関係職種との連携をとりながら、利用者や家族に寄添い望まれた在宅生活を支援する					
区分	戦略マップ(区分・部門目標・計画)	戦略目標(区分・部門目標・計画)	重要成功要因(計画・新たに設定)	評価指標(新たに設定)	平成29年度改善目標値	アクションプラン 実施内容と責任者
説明	縦の展開・因果関係を設定	役割・運営方針を具体化する目標を設定	主な成果の具体的な指標(測定可能なもの)を設定	重要成功要因における測定指標を設定	実現を目指す指標の数値目標	目標を達成するために必要な取組み
地域貢献・顧客		1. 利用者、家族様からの信頼度と満足度の向上 2. 安心のある質の高い看護サービスと思いやりのある看護サービスを提供	1. 主治医、医療関係者、他職種との情報交換 2. 利用者、家族様の意向を理解するための情報交換	1. 定期的な担当者会議、カンファレンス開催、医院訪問	適時開催	1. 利用者、家族様のクレーム、相談等に対応し即、対処する 2. 利用者、家族様の希望に沿ったサービスを提供する主治医と情報交換し関係を密にする 2. ケアマネとの連携強化
財務の視点		1. 利用者の増加による収入の確保 2. コスト削減	1. 利用数の増加を図る 2. 消耗品などのコスト削減の意識を持つ	1. 定期的な広報活動 2. 消耗品の使用確認	1. 5件/月 2. 1回/月	1. 主治医、医療機関への定期な訪問 2. 外部機関への継続的な広報活動の実施 2. コストの前年比の確認
業務プロセスの視点		1. 看護サービスの質の向上 2. 他部署との連携強化	1. 看護カンファレンスを行いスタッフ間で情報を共有する 人員の確保 ヒアリハットの活用 2. サービス担当者会議を通じ情報共有を行なう	1. 看護カンファレンス開催 ヒアリハット報告	1. 月1回 2. 適宜	1. 利用者様の状態変化時には随時カンファレンスを開催 2. 各会議に参加し情報共有を行なう
学習と成長の視点		1. 職員のスキルアップ 2. 法や制度など新しい情報の収集	1. 内部・外部研修会、勉強会への参加 2. 訪問看護管理者会や訪問看護連絡協議会への参加	1. 外部研修の参加数 勉強会、内部研修の開催数 2. 参加回数	1. 年3回 1回/2ヶ月 2. 6回/年	1. 研修参加後、スタッフ間でのカンファレンスを行い情報、意見交換を行なう 2. 研修に参加することができる人員確保 2. 情報収集した内容をスタッフ間で共有する

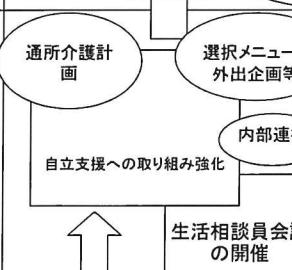
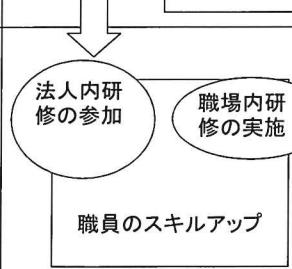
平成31年度 事業計画

部門名	ケアハウス					
理念	活動力と和					
部門方針	個々の利用者の暮らしを尊重しながら、利用者の方々が安心で楽しい生活を送れるよう支援していきます。利用者一人ひとりの心身の状態を把握し、家族との信頼関係を深め、安心して生活ができるように他事業所等と連携し、適切な支援が行えるよう努めていきます。					
区分	戦略マップ(区分・部門目標・計画)	戦略目標(区分・部門目標・計画)	重要成功要因(計画・新たに設定)	評価指標(新たに設定)	平成31年度 改善目標値	アクションプラン 実施内容と責任者
説明	継続的展開・因果関係を設定	役割・運営方針を具体化する目標を設定	主な成果の具体的な指標(測定可能なもの)を設定	重要成功要因における測定指標を設定	実現を目指す指標の数値目標	目標を達成するために必要な取組み
地域の貢献点・顧客		<p>自立を継続させるための支援 できない部分についての提案 退院後の状態に対しての支援 利用者が安心し、楽しく暮らせる環境づくり</p>	<p>①地域行事への参加 ②連携相談 ③相談・苦情の改善 ④緊急時のマニュアルの理解 ⑤季節行事やそれ以外の行事の充実。</p>	<p>①地域行事への参加 ②連携相談 ③相談・苦情の改善 ④緊急時のマニュアルの理解 ⑤季節行事やそれ以外の行事の充実。</p>	<p>年数回 随時 100% 3ヶ月に一回 随時</p>	<p>益踊りや地域事業への積極的参加 入居者の状態報告・連絡・相談 入居者の意向や意見・相談について早期に解決できるようにつめる 入居者の状態把握に努め、緊急時には対応できるようマニュアルを理解しておく。 月間予定表を作成し、利用者が進んで参加できる機会をつくる。</p>
財務の視点		<p>入所者の確保について他事業所との連携を強化する。法人全体の利益も考え、利用者が必要とするサービス提供をおこなう。 また、補助金100%受給するため、満床にすることを目標とする。</p>	<p>①補助金・伝票の期日厳守 ②未集金対策 ③電気代・水道代・一般消耗品 ④稼働率UPさせる</p>	<p>①補助金・伝票等期日前提出 ②未集金発生件数 ③電気代・水道代・一般消耗品 ④他事業所と連携し、入所者確保に努める</p>	<p>各書類の期日〆切 0件 8%削減 年一回 随時</p>	<p>各書類等の〆切までに書類作成し、遅れないように提出する 未収金が発生しないよう確認等を確実にする 使用していない場所の電気はこまめに消す。消耗品の棚卸しをこまめにし内容を把握する 内部…三ヶ月毎に利用状況を報告 和歌山市…年に一度報告。 地域包括支援センター…居室の空き状況を隨時お知らせし、パンフレットを配布。</p>
業務プロセスの視点		<p>利用者、家族への情報提供、共有を行い、利用者自身や家族の思いに添った支援が、出来る限り実現できるよう他事業所と連携し支援していく。</p>	<p>①他事業所との連携・情報交換 ②利用者・家族への連絡・相談 ③チーム内での連携・情報交換</p>	<p>①報告・連絡・相談 ②各種相談事 ③連絡ノート、業務日誌への記録</p>	<p>月数回 随時 毎日</p>	<p>利用者の心身状態の変化等を報告・連絡し相談した上で対応する各種手続き、心身状態についての報告・相談 常日頃の変化や申し送りについて、チーム全体で承知できるようにする。</p>
学習と成長の視点		<p>法人内、外の研修会に参加し、業務に対する意識の向上を図る。 防災訓練等への意識付け</p>	<p>内部研修・勉強会への参加の促し。 消防訓練以外の取り組み</p>	<p>①内部研修・勉強会への参加意欲。参加しての話し合い。 ②独自で年2回、居室内のコンセント周りのホコリ清掃行う</p>	<p>3ヶ月に一回 6ヶ月に一回</p>	<p>内部研修・相談援助についての勉強会参加を促し、意識の共有をはかる。どのような研修参加してみたいか再度話し合い、報告を行う。 日々の目に見えない居室内の危険について、利用者に意識して頂く機会をつくる。</p>

H31年度 事業計画

部門名	生活支援体制整備事業委託業務(地域福祉推進室)・訪問介護職員養成研修事業					
理念	地域みんなで『ふれ愛』、『たすけ愛』、『ささえ愛』					
部門方針	『我が事・丸ごと共生社会』の構想を受け、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、また、目指す地域像の実現に向けて、地域の方々や地域資源、協議体メンバー等との協働により、助け合いの創出とネットワークの仕組みづくりを目指す。					
区分	戦略マップ(区分・部門目標・計画)	戦略目標(区分・部門目標・計画)	重要成功要因(計画・新たに設定)	評価指標(新たに設定)	平成31年度 改善目標値	アクションプラン 実施内容と責任者
説明	継の展開・因果関係を設定	役割・運営方針を具体化する目標を設定	主な成果の具体的な指標(測定可能なものを設定)	重要成功要因における測定指標を設定	実現を目指す指標の数値目標	目標を達成するために必要な取組み
地域の貢献点・顧客		<p>1. 福祉啓発活動の活性化 2. 支え合い体制を整備する 3. 地域に向けた情報の発信と交流 4. 社会福祉施設としての積極的な実習受け入れ</p> <p>行政発信ではない介護教室を開催する。また、サロン活動の開催地区を拡大する。</p> <p>4. 各種研修の受け入れ</p>	<p>1. 地域行事への参加 2. 地域の方々、協議体メンバー等、地域包括支援センターとの連携 3. サロン活動の実施。ふれあい食事会・カフェ活動 喜成会友の会活動での積極的支援 4. 各種研修の受け入れ</p>	<p>1. 定期的な参加 2. 繼続的な関係の維持 3. 事業実施回数 4. 各種研修の実施</p>	<p>1. 行事開催時 2. 月1回 3. サロン活動 (月1回×6箇所) ふれあい食事会 (年10回) 介護教室 (年6回×1箇所以上) (市)家族介護教室 (年2回) カフェ(月2回) 地域交流(ホリディ) (年5回+α) 友の会(開催時) 4. 年2回</p>	<p>1. 身近な機関である事への意識的取り組みとして、地域行事・老人会・つどいの家・サークル活動への参加を積極的に行なう。 2. 地域支え合い体制確立のため、継続的な交流を図る。 3. 地域事業の開催時、福祉情勢・いきがい活動等についての情報発信を行なう。 4. 積極的な実習受け入れ</p>
財務の視点		<p>1. 高齢者支援事業の情報収集 2. 地域高齢者世帯の実態把握 3. 計画的研修の実施による財務の安定化</p>	<p>1. 行政・サービス事業所・地域包括支援センターからの情報収集 2. 地域の方々、協議体メンバー等、地域包括支援センター・居宅介護支援事業所との情報交換 3. 研修の実施</p>	<p>1. 情報収集活動 2. 情報交換回数 3. 研修回数</p>	<p>1. 月1回以上 2. 最低月1回 3. 年2回</p>	<p>1. 社会情勢の変化に伴う福祉事業(制度)の改正に対応するため、定期的な情報の収集は欠かさず実施する 2. 積極的な事業所への訪問、または地域事業開催時(ふれあい食事会等)に地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・地域の方々、協議体メンバー等との情報交換を実施する 3. 法人本部と協同し、研修会を獲得する</p>
業務プロセスの視点		<p>1. 地域課題と社会資源のコーディネート 2. 各地区の情勢に適合した支え合いのシステムを構築し、地域課題に対する相談窓口、検討と計画実践とミニミーティングの機能を整備する。 3. 支え合いのための担い手を養成する。</p>	<p>1. 協議体メンバー等との話し合い、ワークショップを開催 2. 各地区の情勢に適合した支え合いのシステムを構築し、地域課題に対する相談窓口、検討と計画実践とミニミーティングの機能を整備する。 3. 支え合いのための担い手を養成する。</p>	<p>1. 繼続的に実施 2. 必要時、随時に実施。</p>	<p>1. 月1回×3地区 2. 必要時・随時・即応</p>	<p>1. 地域の方々、協議体メンバー等から情報を得た地域課題に対しての勉強会等を定期的に開催する。緊急時には即応する。 2. 各地区、各自治会の実態を検証し、その地域に合致した取り組みを展開させる。協議体メンバーは勿論、抽出された地域課題に関する関係者や担い手も交えた中で討議し、解決につなげる。 3. 認知症サポーター養成講座、ボランティア養成講座などを活用し、必要に応じては地域課題に即した内容の研修も検討する。</p>
学習と成長の視点		<p>1. 柔軟に対応できるソーシャルワークを磨く 2. 福祉人材の育成</p>	<p>1. 各種会議への参加と研修会の参加 2. 認知症介護実践研修の実施(認知症介護実践者研修 年2回開催、認知症介護実践リーダー研修 年1回開催) 3. 離職者等職業訓練介護初級科(自由提案)の開催</p>	<p>1. 定期的に参加 2. 研修回数</p>	<p>1. 会議・研修会開催時 2. 年3回 3. 年1回</p>	<p>1. 欠かさず参加し、ソーシャルワーク技術向上・自己研鑽に努める。 2. 知識・技術の習得を図り、福祉人材の育成に努める</p>

平成31年ディサービス「有本の家」事業計画

部門名	喜成会ディサービス「有本の家」					
理念	私たちは「活動力と和」をもつとうに地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される法人を目指します。					
部門方針	私たちは利用者が住み慣れた在宅での暮らしを継続していくために自立した生活を応援とともに、利用者一人一人を尊重する事によって生きがいのある充実した時間を過ごせるよう努めています。(利用者・家族・地域の方から信頼されるサービスを目指します。)					
区分	戦略マップ(区分・部門目標・計画)	戦略目標(区分・部門目標・計画)	重要成功要因(計画・新たに設定)	評価指標(新たに設定)	平成31年度 改善目標値	アクションプラン 実施内容と責任者
説明	縦の展開・因果関係を設定	役割・運営方針を具体化する目標を設定	主な成果の具体的な指標(測定可能なものを設定)	重要成功要因における測定指標を設定	実現を目指す指標の数値目標	目標を達成するために必要な取組み
地域の貢献点・顧客		1. 地域ボランティア受け入れ体制の強化 2. 利用者満足度の向上 3. 地域交流の強化	1. 受け入れ回数 2. 利用者活動の充実 3. 定期的な地域貢献	1. 受け入れ回数 2. 運動ブース、週間の構築 3. 定期的な地域貢献の開催(1ヶ月に2度(予定))	1. 年10回以上 2. 1ヶ月に1度 3. 1ヶ月に1度	1. 従来来て頂いている慰問を見直し、利用者様のニーズに応えた慰問を提供する。(10件以上の受け入れを行う) 2. 自立支援の観点から運動器具の充実、週間をつけ活動力のあるアイに変更。 3. 地域貢献として、地域祭りの出席、地域老人会(2ヶ所)への参加や場所の貸し出しを行う。定期的な介護教室を開催(3ヶ月1度ペースで)
財務の視点		1. 収入増加	1. 利用者数の増加	1-①利用者增加率 1-②登録者数	1-①1年を通じ平均稼働率83%、1日平均約25名 1-②84人→90人	1-①居宅支援事業所と連携し顧客を増やして行く。毎月、他居宅へのご利用状況報告書を作成し広報活動を行うことによりケアマネとの関係性を作る。 1-②1ヶ月に1度、利用者の利用回数の見直しを行い、必要であればケアマネに連絡を取り、利用回数の増加を行う。 1-③新規居宅への営業活動。 ※戦略的な営業を行う(短時間利用、重度者対応、栄養改善加算、bi算定、見回りサービスなど)の体制をとり經營をしていく。
業務プロセスの視点		1. 自立支援への取り組み強化 2. 生活相談会議の開催 3. 業務の効率化	1-①通所介護計画のモニタリング・再アセスメントの強化 1-②館内でのプログラムの充実 2. 業務の見直し(特に連携) 3.2の業務の見直しを行った後、効率化を図るシステム作りを行う。	1-①月に1回 1-②月に1回 2.月に1回 3.半年に1回目標(但し必要であれば随時)	1-①月に1回 1-②月に1回 2.月に1回 3.半年に1回	1-①日々のミーティングの中で、変化のあった利用者の状態を通して介護計画に反映する。さらに月間に度見直しを行い、変更箇所は当日に変更する。半年に1度の評価を行い達成状況をケアマネにも報告。 1-②健康志向に時代が変化している為、運動ブースの構築、栄養改善加算、bi算定 2-①随時、テーマを絞った(利用者、業務など)の話合いを行い改善、変更を行っていく。 3-①月に1度相談会議の開催を行い、変更、改善を行っていく。 3-②半年に1度全体会議を行い、変更、改善を行っていく。
学習と成長の視点		1. 職員のスキルアップ	1-①法人内研修の参加 1-②ディサービス3事業所勉強会の参加 1-③事例検討勉強会の定期開催を行う。	1-①職員参加率 1-②職員参加率 1-③職員参加率	1-①80% 1-②80% 1-③80%	1-①年6回以上ある法人内研修に参加し、現場に活かせるように伝達を行い、すぐにでも行える取組み内容を検討し実施して行く。 1-②年に3回勉強会に参加し、①仕事の捉え方②認知症③今後の方針を予定している。潜在意識部分の強化、質の向上、職員のスキルアップを図る。 1-③対応が困難な利用者様に対してのアセスメントを強化し、対応力の向上を目指す。

平成31年度 事業計画

部門名	喜成会ホームヘルプサービス六十谷					
理念	私たちは「活動力と和」をモットーに地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される法人を目指します。利用者の方一人ひとりに合った在宅生活の中で、安心して過ごしていただけるよう、質の高いサービス提供に努める					
部門方針	ご利用者様の日常の生活を理解させていただきながら、残存能力を生かして自立した在宅生活が維持できるように支援する					
区分	戦略マップ(区分・部門目標・計画)	戦略目標(区分・部門目標・計画)	重要成功要因(計画・新たに設定)	評価指標(新たに設定)	平成31年度改善目標値	アクションプラン 実施内容と責任者
説明	綱の展開・因果関係を設定	役割・運営方針を具体化する目標を設定	主な成果の具体的な指標(測定可能なものを設定)	重要成功要因における測定指標を設定	実現を目指す指標の数値目標	目標を達成するために必要な取組み
地域の貢献点・顧客	<pre> graph TD A([利用者の満足度の向上]) --> B([利用者の状況把握]) B --> C([接遇レベルの向上]) C --> D([利用環境の向上]) D --> E([事業所全体での取組み]) </pre>	1. ご利用者の満足度向上 2. サービスの質の向上 3. 利用者の状況理解 4. 居宅支援事業所との交流	1. ご利用者様の声を聞く 2. 情報を得る 3. 介護支援専門員の方との連携	1. 満足度指数 2. 訪問にて情報を得る 3. 書類作成での提示	90% 月 2回	1. 訪問をさせて頂き、ご利用者のサービスのニーズを検討する。 2. 担当者会議を開くように連携を図る。 3. 実施責任者、管理者及びサービス提供責任者
財務の視点	<pre> graph TD A([財務基盤の安定 経営の安定化]) --> B([業務の効率化]) </pre>	1. 収益力の強化 2. 訪問介護計画の作成と説明を行い信頼関係を築く 3. ご利用者に対しての気付き	1. 対前年度に対して月次管理の徹底 2. ご意見の参考	1. 前年対比率で毎月プラスになること 2. 頻度は毎月実施する 3. 目標数値、売上を上回る。	毎月90%以上の達成率	1. 利用者の方との信頼関係を築き安心したサービスを行う。 2. 新規のご利用者の方は受け入れられる体制を整える。 3. 実施責任者、管理者及びサービス提供責任者
業務プロセスの視点	<pre> graph TD A([人事考課の定着]) --> B([報告・連絡・相談の実行]) B --> C([サービス提供の重視]) </pre>	1. 人事考課の定着 2. ヘルパー間及びケアマネとの連携の強化 3. 福祉サービスの質の向上	1. サービス担当者会議等を通じサービスの質の向上を図る 2. ヘルパー会議の徹底	1. ヒアリハット報告 2. 勉強会の実施	1ヵ月に1回	-ヒアリハットの話し合いを行いお互いの業務の注意する点の見直し、改善を図る -ご利用者の状況把握 -実施責任者、管理者及びサービス提供責任者
学習と成長の視点	<pre> graph TD A([職員満足度の向上]) --> B([職員の自己啓発を促す]) B --> C([職員のキャリアアップ]) </pre>	1. 研修会、勉強会への参加促進 2. 最新情報の収集	1. 訪問介護員の介護福祉士資格取得 2. 事業所で勉強会の実施	1. ヘルパーの介護福祉士資格取得率の向上	全職員の80%習得を目指す	1. 資格取得の推進 2. 研修参加率の向上 3. 実施責任者、管理者及びサービス提供責任者

平成31年度 事業計画

部門名	喜成会ケアプランセンター「有本」					
理念	利用者受益					
部門方針	介護支援専門員としての法令遵守と倫理観を持ち、支援を行う。					
区分	戦略マップ(区分・部門目標・計画)	戦略目標(区分・部門目標・計画)	重要成功要因(計画・新たに設定)	評価指標(新たに設定)	平成30年度 改善目標値	アクションプラン 実施内容と責任者
説明	縦の展開・因果関係を設定	役割・運営方針を具体化する目標を設定	主な成果の具体的な指標(測定可能なものを設定)	重要成功要因における測定指標を設定	実現を目指す指標の数値目標	目標を達成するために必要な取組み
地域の視点・顧客		1. 潜在利用者の掘り起こし	①地域での事業所知名度の向上(PR活動・事業内容の認知度を向上させる。)	①地域行事への参加 ②近隣包括への営業活動	①年2回以上 ②宮北・城北・有功へ月1回以上訪問を行う。	1. 地域行事への参加、近隣包括への営業活動にてPR活動を行う。
財務の視点		1. 収入の増加	①稼働率の向上	①常勤換算による稼働率 90% (要介護者1.0人、要支援者0.5人とカウント。最大39名で計算)	稼働率 90%の達成	1. 常勤換算1名として、最大39人のところ、稼働目標90%、35人と設定し、新規の受け入れに取り組む
業務プロセスの視点		1. ケアマネジメントの質の向上	①サービスおよび社会資源についての情報収集 ②他部門との連携の強化	①本部居宅介護支援事業所との連携を図り、社会資源等の情報又はサービス提供に当たっての留意事項に係る共有を目的としたITの活用を実施。	①週1回共有フォルダの確認を実施。	1. 毎週週初めの出勤日に本部居宅介護支援事業所との共有フォルダを確認する。
学習と成長の視点		1. 専門職としての資質の向上	①外部研修にて専門性を高める ②法人内研修による質の向上を図る	①ネットワーク会議・包括研修会への参加 ②専門団体開催の研修会への参加 ③法人内研修への参加 ④「有本の家」事業所内勉強会への参加	①年4回 ②年4回 ③年2回 ④年2回	1. 各種団体の研修会に参加し、専門知識を習得する。

平成31年度 事業計画

部門名	養護老人ホーム 喜和の郷					
理念	「活動力と和」をモットーに地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される法人を目指します。					
部門方針	利用者の自主性の尊重及びプライバシーの保護に留意しニーズの把握に努め施設内生活や地域生活に楽しみや生き甲斐を持って頂ける様な支援を果たしていく。また、社会復帰の促進及び自立の為に必要な指導や訓練、その他の援助を行う事により利用者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営む事が出来る様支援していく。さらに施設を開放する事で地域福祉の拠点としての役割を担っていきます。					
区分	戦略マップ(区分・部門目標・計画)	戦略目標(区分・部門目標・計画)	重要成功要因(計画・新たに設定)	評価指標(新たに設定)	平成30年度 改善目標値	アクションプラン 実施内容と責任者
説明	縦の展開・因果関係を設定	役割・運営方針を具体化する目標を設定	主な成果の具体的な指標(測定可能なもの)を設定	重要成功要因における測定指標を設定	実現を目指す指標の数値目標	目標を達成するために必要な取組み
地域の貢献点・顧客	<ul style="list-style-type: none"> ①利用者満足度の向上 ②地域行事への参加 ③余暇活動支援 	<ul style="list-style-type: none"> ①-①イベントの開催回数(企画イベント・盆踊り・敬老会・クリスマス会) ①-②利用者と話し合い会を開催する ②-①中学校運動会・文化祭参加及び作品展の出品 ③施設内外での余暇活動支援(カラオケ・おやつ作り・散歩) 	<ul style="list-style-type: none"> ①-①イベントの開催回数(企画イベント・盆踊り・敬老会・クリスマス会) ①-②話し合いの会開催回数(4月・10月) ②-①地域行事への参加回数 ③余暇活動の開催回数 	<ul style="list-style-type: none"> ①-①6回／年 ①-②2回／年 ②-①2回／年 ③1回／2ヶ月 	<ul style="list-style-type: none"> ①-①イベント会議を開催し実施していく(イベント委員) ①-②話し合いの会にて挙げられた提案や改善点を協議し利用者の満足度の向上に繋げる(生活相談員) ②-①地域行事の日程確認を行い参加する(相談員) ③イベント委員が中心となり遂行していく(イベント企画委員) 	
財務の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①収入の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ①-①養護及びショート稼働率向上 ①-②介護保険請求人数 	<ul style="list-style-type: none"> ①-①月平均入所稼働率 ①-②月平均利用人数 	<ul style="list-style-type: none"> ①-①養護 100% ショート 100% ①-②50名 	<ul style="list-style-type: none"> ①-①緊急入所受け入れ(養護・ショート)、各事業所、地域包括支援センターとの連携を図る。営業活動として、養護担当者は月一度和歌山市役所へ待機者確認をし入所依頼をする。ショート担当者は月一度居宅支援事業所へ入所依頼をする。(相談員) ①-②要介護認定を受けている利用者の状態把握を行い、措置費とのバランスを考えながら利用者数を増加させる(主任相談員) 	
業務プロセスの視点	<ul style="list-style-type: none"> ①福祉サービスにおける質の向上 ②ワークライフバランスの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①事故報告書の徹底・分析・内容の改善 ②年次有給休暇の取得 	<ul style="list-style-type: none"> ①事故内容検討率 ②有給休暇の取得 	<ul style="list-style-type: none"> ①100% ②2ヶ月に1回(年6回) 	<ul style="list-style-type: none"> ①リスクマネジメント会議にて改善策の検討及び評価を行う(リスクマネジメント委員) ②年次有給休暇の取得を均等に行い、有給休暇取得による嫌悪感を払拭し、個人の心身のリフレッシュにあてる(責任者:相談員) 	
学習と成長の視点	<ul style="list-style-type: none"> ①職員の質の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ①-①法人・事業所内研修の参加 ①-②法人外研修の参加 ①-③業務改善の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ①-①法人・事業所内研修実施回数参加率 ①-②法人外研修の参加回数 ①-③フロア会議開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①-①全職員2回以上 ①-②6回／年 ①-③1回／月 	<ul style="list-style-type: none"> ①-①研修後一ヶ月以内に各部署会議にて話し合い、報告書を提出(研修委員) ①-②研修後、復命書により報告する(相談員) ①-③フロア会議を開催し、業務改善等を話し合い共通認識を図る(フロア会議委員) 	

平成31年度 事業計画

部門名	地域密着型特定施設 サンオーク紀伊					
理念	個々の利用者の暮らしを尊重しながら生活の継続性を大切にし、入居者の方々に「一笑健明」をスローガンに一生笑って健康で明るく生活して頂けるよう支援する事を目的とします。					
部門方針	事業所理念である「一笑健明」を遂行させるため、次項を最重要指針と位置付け、積極的に取り組みます。 1、やすらぎのある暮らしをめざします。 2、介護のプロとしての意識を高めます。 3、一人ひとりの生活を大切にします。					
区分	戦略マップ(区分・部門目標・計画)	戦略目標(区分・部門目標・計画)	重要成功要因(計画・新たに設定)	評価指標(新たに設定)	平成31年度 改善目標値	アクションプラン 実施内容と責任者
説明	綱の展開・因果関係を設定	役割・運営方針を具体化する目標を設定	主な成果の具体的な指標(測定可能なもの)を設定	重要成功要因における測定指標を設定	実現を目指す指標の数値目標	目標を達成するために必要な取組み
地域貢献点・顧客		1、入居者満足度の向上 2、地域とのつながり 3、接遇レベルの向上	1、日々入居者の声を傾聴する訴えの出来ない方へ配慮・目配り・気配り 2、運営推進会議の実施、参加 3、接遇チェックシート活用による職員の育成	1、希望、要求、満足度調査 2、運営推進会議の実施回数 3、接遇チェックシートによるアンケートの実施 指導職を交えてカンファレンスの実施	1、年1回 2、6回／年 3、1回／年	1、調査結果、スタッフで検討し業務の改善につなげる 2、資料作成、案内状の配布 3、介護現場におけるマナーの徹底、意識付けの為のアンケートの実施
財務の視点		1、入居稼働率の安定 2、コスト意識の向上 3、業務の効率化	1、入居者・入居待機者の獲得 2、電気使用、事務用品、消耗品の削減 3、業務の無駄をなくす (職員の無駄な動きを無くし、効率を上げる)	1、稼働率 2、電気、水道、消耗品費等のコスト削減 3、職員各々意見収集	1、100% (25名) 2、前年度より削減 3、2回／年の戦略会議	1、入居者獲得、待機者の補充に向けての各関係機関との連携強化 2、職員が日々意識することによりさらなるコスト意識の徹底 3、全員で意識し周知徹底を行う
業務プロセスの視点		1、サービスの質の向上 2、入居者様本位の業務効率化への取り組み	1、入居者のインシデント、アクシデント報告、徹底、分析、改善 2(1)、入居者様の心身機能の活性化、社会性の確立に向けた取り組み 2(2)、施設サービス計画、モニタリング、アセスメントの徹底	1、事故、ヒヤリハット提出の徹底 2、心身機能活性化 3、個別カンファレンスの実施	1、1回／月 2、週3回以上 3、2回／年	1、リスクマネジメント会議の開催により分析を行い、改善策の検討、インシデント、アクシデントの減少 ヒヤリハット提出分の早期改善 2、日々活性化の為他者との触れ合い、レクリエーションの時間を設ける。企画担当者を中心に、生きがい、社会性、季節感を意識した企画の計画実施 居室担当者による各居室の清潔、物品管理 3、アセスメント実施により、サービス計画に沿った統一したケアの確立
学習と成長の視点		1、職員の質の向上	1(1)、法人内研修への参加 1(2)、施設内勉強会の開催 1(3)、職員会議の実施	1(1)、研修参加回数 1(2)、施設研修回数 1(3)、会議開催回数	1(1)、100% 1(2)、2回／年 1(3)、1回／月	1(1)、研修開催後に職員参加の伝達、検討、実施 1(2)、介護職員に対する質の向上を図る職業倫理や介護の知識、技術、洞察力を養う 1(3)、チームケアの向上及び統一化を図る